

平成 26 年度風しん抗体検査事業実績

～ 20 歳代女性では風しんの免疫が十分でない方が約 4 割～

平成24年から25年の風しんの流行を受け、都内のほとんどの自治体では、平成26年度から、先天性風しん症候群対策として、「風しん抗体検査」を行う事業を実施しています。

都内の自治体における平成26年度風しん抗体検査事業の実績を集計した結果、抗体検査を受けた方のうち、約3割の方が免疫が十分でない(低抗体※)ことがわかりました。

特に、20歳代の女性においては、37.8%という高い割合でした。

生まれてくる赤ちゃんを先天性風しん症候群から守るため、風しんり患歴や予防接種歴が不明である場合には、抗体検査を受け、免疫が十分でない場合は予防接種を受けましょう。

※ 本事業における「低抗体」とは、原則、HI法16倍以下、EIA法8.0未満

1 都内区市町村における抗体検査事業・26年度実績の概要（詳細は別紙参照）

▶ 抗体検査を受けた方で、 免疫が十分でない方の 年代別の割合		20歳代	30歳代	40歳以上
	男性	32.1%	29.6%	32.9%
	女性	37.8%	26.8%	31.6%
	年代別	36.9%	27.6%	32.2%

結果の
ポイント

抗体検査事業により抗体検査を受けた方は・・・

- 20歳代女性のうち免疫が十分でない方は37.8%
- 他の年代でも、免疫が十分でない方は約3割

2 抗体検査について

抗体検査は、自らの風しんに対する免疫の状況が確認できるものです。妊婦、特に、妊娠初期の女性が風しんにかかると、赤ちゃんが先天性風しん症候群（詳細別紙）となる可能性があるため、都内のほとんどの自治体で、主に、妊娠を予定又は希望する19歳以上の女性を対象として、抗体検査を実施しています。検査費用は無料です（※）。

また、免疫が十分でないことが判明した場合に受けていただく予防接種についても助成を受けられる場合があります。

詳しくは、お住まいの区市町村にお問合せください。

※ 一部の特別区では、配偶者や同居家族等の男性を検査対象者としている場合があります。

都民の皆様へ

今後、再度風しんが流行することも十分考えられます。

自分自身や家族など、周りの人々を風しんから守り、生まれてくる赤ちゃんを先天性風しん症候群から守るために、風しん予防の取組をお願いします。

◎まず抗体検査

風しんのり患歴や予防接種歴の有無がわからない方は、抗体検査で抗体保有状況を確認してください。

◎免疫が十分でない方は予防接種を

定期予防接種対象者、抗体検査で免疫が十分でない方は、必ず予防接種を受けましょう。

【問合せ先】

福祉保健局健康安全部 感染症対策課

電話 03(5320)4482 (直通)

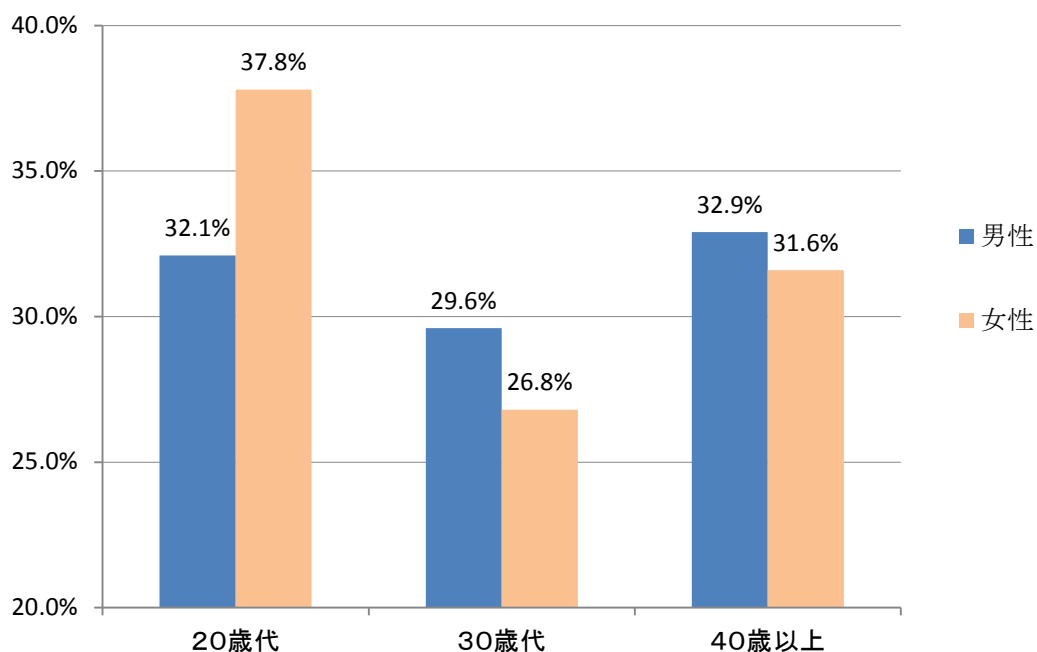
内線 34-322

《 都内区市町村における風しん抗体検査事業実績（詳細） 》

		19歳	20歳代	30歳代	40歳以上	計
男性	受検者数	1	993	3,308	780	5,082
	低抗体者数	0	319	980	257	1,556
	低抗体者の割合	0.0%	32.1%	29.6%	32.9%	30.6%
女性	受検者数	88	5,533	8,252	901	14,774
	低抗体者数	39	2,090	2,209	285	4,623
	低抗体者の割合	44.3%	37.8%	26.8%	31.6%	31.3%
年代別低抗体者の割合		43.8%	36.9%	27.6%	32.2%	31.1%

- ※ 検査対象者は、原則、妊娠を予定又は希望する19歳以上の女性
(一部の特別区では、配偶者や同居家族等の男性を検査対象者としている場合がある。)
- ※ 年代別内訳がある自治体の集計結果
- ※ 本事業における「低抗体」とは、原則、HI法16倍以下、EIA法8.0未満又は国際単位
①30IU/mL未満、国際単位②45IU/mL未満

年代別 低抗体者の割合



※ 都内の風しん抗体検査事業及び予防接種事業の実施状況については、福祉保健局のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryu/kansen/measles-rubella/fuushin.html>

1 風しんとは

風しんウイルスによっておこる急性の発疹性感染症です。風しんウイルスを含んだ飛まつ(咳やくしゃみ、会話、発語などで飛び散るしぶき)を吸い込んで感染します。主な症状として発疹、発熱、リンパ節の腫れが認められます。

また、風しんは感染力が強く、一人の患者から免疫がない5～7人に感染させる可能性があります(インフルエンザでは1～2人)。

特に成人で発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり、関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあり、一週間以上仕事を休まなければならない場合もあります。成人において、決して軽視はできない疾患です。

2 先天性風しん症候群について

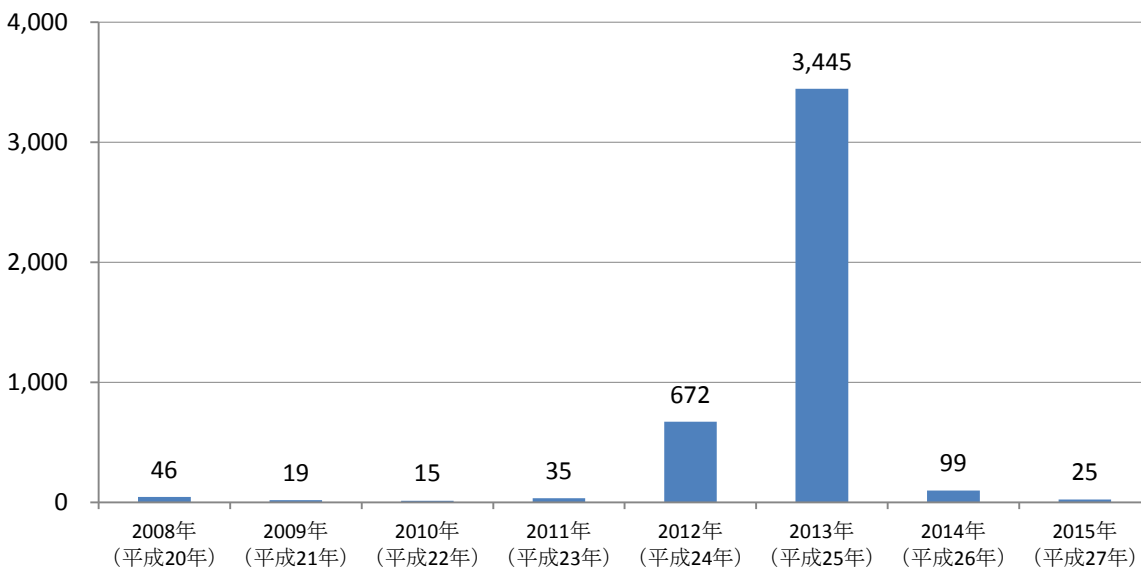
妊婦、特に、妊娠初期の女性が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障などの障害をもった赤ちゃんがうまれる可能性があります(妊娠1か月でかかった場合50%以上、妊娠2か月の場合は35%など)。これらの障害を先天性風しん症候群といいます。

3 風しんの流行状況

平成24年及び25年に風しんが流行し(図1参照)、全国の患者報告数は16,749例(都内は3,445例)で、成人がこのうち約9割を占めたほか、以下の特徴がみられました。

- 男性は女性の約3倍と多く、特に昭和48～55年度生まれで顕著(35歳～42歳)
- 女性は、昭和58年度から平成7年度生まれで多い(20歳～32歳)
- 職場での感染が疑われた患者が多く、通勤時の感染が疑われる患者もみられた。
- 平成25年及び26年の2年間に全国で41人が先天性風しん症候群と診断
- 都内だけでも16人の出生児が先天性風しん症候群と診断

図1 風しんの流行状況(都内) (平成27年9月13日時点)



※ 最新の情報については、東京都感染症情報センターのウェブサイトをご覧ください。

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/rubella/>

4 風しんの定期予防接種について

風しんワクチンは1回の接種で約95%、2回の接種で約99%風しんを予防できます。

定期予防接種として、以下の接種期間で、風しんワクチンの接種を行っています(原則的にはMRワクチン(麻しん・風しん混合ワクチン)を接種)。

東京都は、第2期の接種率が全国で46番目の順位です。決められた期間に接種を受けましょう。

	接種期間	平成26年度接種率 ※()は全国順位
第1期	1歳以上2歳未満	96.0% (33位)
第2期	5歳から7歳未満で小学校就学前1年間	89.8% (46位)

詳細は、厚生労働省のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou21/hashika.html>

5 定期予防接種を受けていない性・世代の存在

昭和54年4月1日以前生まれの男性は、1回も風しんの予防接種を受けていません(図2参照)。男女別・年代別で風しんの予防接種制度が異なることから、風しんウイルスに対する免疫の保有状況が性・年代で大きく異なります。

図2 年代別でみる風しんの予防接種制度の変遷

